



“農業、を”食農産業、に発展させる

食農産業は、農業の6次産業化を始め、
経済、商業、資源環境、健康福祉、栄養科学などにも通じるテーマです。
あなたの想いを論文・作文にして実現しませんか？

第33回 ヤンマー学生懸賞 論文・作文募集

【応募期間】2022年6月1日(水)～10月20日(木)

【入選発表会】2023年2月10日(金)

●論文の部 [大賞] 100万円 ●作文の部 [金賞] 30万円

新たな未来に繋がる、持続可能な夢を描こう！



■ヤンマーの目指す農業の姿

“農業”を“食農産業”に発展させる

ヤンマーは、より高い生産性・より低い環境負荷・より強い経済性を追求し、これまでの機械化・省力化・資源の有効活用に加え、「食」の分野からも生産物の付加価値を高めていきます。また、今までに培ってきたテクノロジーとソリューションで、持続可能な農業を実現し、食の恵みを安心して享受できる社会をめざし、農業を魅力あふれる食農産業へ発展させていきます。

■事業開始の背景

ヤンマーは、日本農業の転換期を迎えていた1990年、厳しい時代にも21世紀への夢と希望を持ち、先駆的な挑戦を試みる元氣な農家やその集団が全国各地に誕生しつつあることを知り、「いま日本の農業がおもしろい～その変化と対応～」をスローガンとして、積極的に未来を語りエールを送っていました。その一方で、次世代を担う若者たちに農業と農村の未来について、自由な発想を論じてもらうことを趣旨として、「ヤンマー学生懸賞論文・作文募集事業」を開始いたしました。

■農業を取り巻く課題

農業が持続可能であり続けるために、今ある変化にどのように対応するかが重要な鍵となります。国連によると、現在約80億人の世界人口は、2050年には97億人まで増加する見込みです。また、近年の異常気象による農作物の不作が世界各地で報告されており、気候の変動は作物の生育に影響を与え、適期作業のタイミングが難しくなっています。日本の農業においても、高齢化や後継者不足が進み、離農が増加することで耕作放棄地が拡大し、農業生産量は減少傾向にあります。そんな中、平均経営耕地面積の大規模化など、いま農業を取り巻く環境は刻々と変化し、世界規模で様々な課題に直面しています。あらゆる地域で経済発展を遂げ、人口が都市部に移動し、農業人口が益々減少していく中、少ない農業生産者が、増え続ける食料需要を賄っていくために、また、将来に向けて持続可能な未来（A Sustainable Future）を実現するために、現在の農業・食料生産の在り方そのものを進化・変革させていかなければなりません。

■趣旨

ヤンマーは、これまで追求してきた農業の「生産性」と「資源循環」を今後も継続し、更に高いレベルを目指すとともに、農業の儲かるかたち、農業や生産物そのものの付加価値を高める、経済性の追求にも取り組んでいます。第一次産業である農業は、人々の健康を守り命を育むために欠かせない大切な存在でありながら、利益を生み出しにくい構造となっています。農業生産の先にある加工、流通、消費に至る“フードバリューチェーン”に入り込み、広く、“食”に対する課題の解決策を提供したいとの思いから、生産物の付加価値を高めることで、「持続可能な農業のかたち」を次世代を担う若い皆様と一緒に考えていきたいと考えています。本事業も今年で33回目を迎えます。学生の皆様には、日本や世界の農業において直面する課題を捉え、持続可能な農業を実現するための新たな発想を広く自由な観点で論じ、夢と若さあふれる提言を数多くお寄せいただきたいと思います。

募集内容

論文の部

上記趣旨に沿い下記例示も参考に、21世紀農業の確立を目指した“先駆的挑戦”を内容としてください。スマート農業、農産技術、農芸化学、農業モデル（都会、中山間地、大規模平野、臨海地域）、新規ビジネスモデル、資源環境・自然科学・健康福祉・栄養科学・流通・教育・ICTとの連携など、あなたが学習・研究しているさまざまな分野から独自の構想で提言し、その実現の過程、手法等を論理的に述べて下さい。例えば次のような論点も、今日的切り口として参考にして頂くようお願いいたします。

〈あなたの独自のテーマ例又は内容〉

- 1) 高い生産性を誇る食料生産の実現
- 2) 安全・安心な食料生産と供給
- 3) 多様化する食ニーズへの対応
- 4) 持続可能な地球環境との調和
- 5) 生産者の経済性追求
- 6) 産地から食卓までを繋ぐ食のバリューチェーン確立
- 7) 健康福祉と農業の関わり
- 8) テクノロジーとサービスによるトータルサポートの創造

その他“将来の夢の農業”の創造・提案など、あなたの独自のテーマを設定して、論文にまとめていただいても結構です。

作文の部

上記趣旨に沿った作文をまとめて下さい。あなたの感じていること、夢や思いを、これまでの体験やその時の情景を描写しながら作文にまとめて下さい。

論文の部：応募要領

●応募資格：2022年10月20日現在で、下記項目の全てに該当する方。

1)所属	右記のいずれかに在籍する学生 ※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)	・大学 ・大学院 ・短期大学 ・農業大学校 ・農業短期大学 ・各種専門学校
2)年齢	30歳以下 ※但し、外国からの留学生(日本国籍でない方)は35歳以下。	
3)前提条件	(1)作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。) (2)グループによる共同執筆可。 (3)過去、論文の部入賞者の応募は不可。 (4)過去、作文の部入賞者の応募は可。	

●応募規定

1)言語	和文(日本語)	
2)作成ソフト	Microsoft Word(PDFでの応募も可)	
3)用紙規格	A4サイズ 縦	
4)書式	横書き	
5)文字数、字体サイズ	本文部分の総字数で、8,000字以上、12,000字以内とする。 他部分(表紙、要旨、目次、添付資料、データ・図表、参考文献等)の文字数は、総字数に含まない。 原則として、『横40文字×縦40行』のレイアウトとし、用紙1枚あたり1,600字以内とする。 明朝体またはゴシック体で10.5～12ポイント	
6)提出書類	(1)応募申込	弊社ホームページの応募申し込みフォームに、必要事項を入力する。
	(2)要旨	A4サイズ 縦1枚に横書き、800字以上、1,200字以内で作成すること。 (図表の使用は不可) ※冒頭に題名(作品タイトル)を明記すること。 ※氏名・学校名は記載しないこと。
	③図表・写真等	以下①～④を1つの文書ファイルにまとめる。 ※図・表・写真等も本文ファイル内へ貼り付け、別ファイルにしない。
		①目次 必ず目次をつけること。 ②本文 本文冒頭に題名(論文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 ページ数を打つこと。 (ページは文字数に含まない)
(3)作品原稿	④参考文献	原則として、本文中の適切な箇所へ挿入すること。タイトルの記入位置は、図・写真の場合はその直下に、表の場合はその直上とする。また原則として挿入の位置は、それらがレポート内の文章に最初に登場したページもしくはその次のページに入れること。 図・表の見やすさは、評価のポイントになるため、画質や精細に注意すること。 ※小さな文字・数字は読めるように注意し、必要な場合は、カラーで提出すること。 (凡例データの多い棒グラフなど)
		DVD、ビデオ等の動画資料は不可とする。
7)提出方法	弊社ホームページからの応募に限る ※紙での郵送は不可	上記 提出書類(2)～(3)各ファイルを、応募申し込みサイトにアップロードすること。

作文の部：応募要領

●応募資格：2022年10月20日現在で、下記項目の全てに該当する方。

1)所属	右記のいずれかに在籍する学生 ※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)	・農業大学校 ・農業短期大学
2)年齢	25歳以下	
3)前提条件	(1)作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。) (2)過去、作文の部入賞者の応募は不可。 (3)過去、論文の部入賞者の応募は可。	

●応募規定

1)言語	和文(日本語)	
2)作成ソフト	Microsoft Word(PDFでの応募も可)	
3)用紙規格	A4サイズ 縦	
4)書式	横書き	
5)文字数、字体サイズ	総字数で、2,800字以上、3,200字以内とする。 原則として、『横40文字×縦40行』のレイアウトとし、用紙1枚あたり1,600字以内とする。 明朝体またはゴシック体で10.5～12ポイント	
6)提出書類	(1)応募申込	弊社ホームページの応募申し込みフォームに、必要事項を入力する。
	(2)作品原稿(作文本文)	本文冒頭に題名(作文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 ページ数を打つこと。 (ページは文字数に含まない)
7)提出方法	弊社ホームページからの応募に限る ※紙での郵送は不可	上記(2)作品原稿を応募申し込みサイトにアップロードすること。

応募期間・発表

応募期間	2022年6月1日(水)～10月20日(木)23:59までにエントリー	
結果発表	【入選者決定(社内審査会)】 2022年12月23日(金) 予定	社内審査会で決定後、12月27日(火)までに入選者本人へ通知予定
	【入選発表会開催予定】 岡山コンベンションセンター 2023年2月10日(金) 予定	入選者表彰(各賞決定、表彰) ※入選者は入選発表会に出席いただきます。 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により開催方法を変更する場合があります。
	【入選結果掲載・落選結果通知】 2023年2月下旬を予定	弊社ホームページに入選者一覧を掲載 ※落選結果通知は、本人への応募記念品の発送をもって替えさせていただきます。

＊論文の部 入選者の方へ

入選発表会会場にて、論文の内容をまとめたパネルを展示いたします。入選通知を受けた方は次の要領にて、パネル用資料を作成願います。詳細は入選者本人へ改めてご連絡いたします。新型コロナウイルスの感染拡大により、入選発表会がオンライン開催となった場合は、作成不要です。

1)資料送付期間	入選通知後 ～ 2023年1月27日(金) ※メールにて事務局まで送付してください。
2)対象となる資料	論文要旨、論文内で使用したデータ(図、表、グラフ、写真等) ※論文内で使用していないデータは対象となりません。
3)パネル用資料作成要領	Microsoft WordのA4サイズ 縦、横書きで2ページとします。1ページ目に論文タイトル・学校名・氏名・論文要旨を記載。2ページ目に論文内で使用した図表を貼付けしてください。 ※作成いただいた資料を事務局にてA1サイズのパネルに加工いたします。
4)文字の大きさ	12～16ポイント

表彰・賞金

論文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
大賞	1編	100万円	表彰楯
特別優秀賞	2編	30万円	表彰楯
優秀賞	10編	10万円	表彰楯

作文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
金賞	1編	30万円	表彰楯
銀賞	2編	10万円	表彰楯
銅賞	10編	5万円	表彰楯
奨励賞	15編		賞状、記念品

※論文の部グループ応募の場合、表彰楯は代表者に1枚、グループメンバーには表彰状を贈呈いたします。

※入賞されなかった場合も、応募資格・応募規定を満たした方には、応募記念品をお送りいたします。

審査方法

事務局審査	事務局による様式審査(応募資格・規定による審査)等
社内審査(一次・二次)	弊社内選考委員による内容審査 ・入選作品(論文・作文各13編)の選出 ・作文の部 奨励賞の決定 ※発表は入選発表会の開催後
最終審査	最終審査委員による審査 ・入選発表会の同日に、各賞の決定 ※論文の部については、最終審査委員による簡単なインタビューを実施予定

最終審査委員（五十音順、敬称略）

●岩田 三代(いわた みよ)氏 [専門/食・くらし]

愛媛大学法文学部卒業。(株)日本経済新聞社に入社。婦人家庭部記者、同部編集委員兼次長、編集局生活情報部長、論説委員兼生活情報部編集委員として、女性労働問題、家族問題、消費者問題など広く取材。2015年4月退社後、フリージャーナリスト。現在、実践女子大学非常勤講師、(一財)女性労働協会会長、政府委員として、食料・農業・農村基本問題調査会委員、国民生活審議会委員などを務めた。主な著書に『伝統食の未来』(ドメス出版、編著)などがある。

●大杉 立(おおすぎ りゅう)氏 [専門/農業]

東京大学農学部卒業、農学博士。農林水産技術会議事務局研究調査官、農業生物資源研究所光合成研究室長、農林水産技術会議事務局研究開発官を経て、2001年より2016年まで東京大学大学院農学生命科学研究科教授、同大学院農学生命科学研究科特任教授を経て、現在八ヶ岳中央農業実践大学校長、および東京農業大学客員教授、日本学術会議連携会員、(一社)日本農学会会長、日本農学アカデミー副会長。これまでに、日本作物学会賞などを受賞。日本作物学会会長、総合科学技術会議革新的技術推進アドバイザーなどを務める。主な著書に『作物学辞典』(朝倉書店、共著)、『作物生産生理学の基礎』(農山漁村文化協会、共著)などがある。

●近藤 直(こんどう なおし)氏 [専門/農業工学]

京都大学大学院農学研究科修士課程修了(農業工学専攻)、農学博士。岡山大学助手、助教授、愛媛大学教授などを経て、2007年より京都大学大学院農学研究科教授。これまでに、アメリカ農業工学会功績賞、農業機械学会賞学術賞、同学会森技術賞、日本生物環境調節学会賞(学術賞)、(一財)日本機械学会ロボメカ部門技術業績賞、農林水産省農業技術功労者表彰、日本農業工学会賞、日本農学賞、文部科学大臣表彰科学技術賞、(公社)大日本農会緑白綬有功章などを受賞。主な著書に『農業ロボット(I)(II)』(コロナ社)、『生物生産工学概論－これからの農業を支える工学技術－』(朝倉書店)、『Physical and Biological Properties of Agricultural Products』(京都大学出版)、『農業食料工学ハンドブック』(コロナ社、いずれも共著)などがある。

●佐藤 年緒(さとうとしお)氏 [専門/環境・科学技術]

東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了、学術博士。(株)時事通信社の記者、編集委員として地方行政や科学技術、地球環境や水問題を報道。2003年退社後、国立研究開発法人・科学技術振興機構発行の科学教育誌『Science Window』編集長などを経て、現在、環境・科学技術ジャーナリスト、日本科学技術ジャーナリスト会議理事。著書に『森、川、海をつなぐ自然再生』(中央法規)、『つながるいのち－生物多様性からのメッセージ』(山と溪谷社、いずれも共著)などがある。

●生源寺 眞一(しやうげん じんいち)氏 [専門/農業経済学]

東京大学農学部卒業。農林水産省農事試験場研究員・同北海道農業試験場研究員、東京大学農学部助教授・同教授、名古屋大学農学部教授を経て、2017年4月に福島大学教授(食農学準準備室長)、2019年4月から同食農学類長。このほか、認定NPO法人樹恵ネットワーク会長、地域農政未来塾塾長、NPO法人中山間地域フォーラム会長など。これまでに東京大学農学部部長、日本農業経済学会会長、日本学術会議会員も務める。近年の著書に『農業と農政の視野』(農林統計出版)、『新版：農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』(家の光協会)、『農業と人間』(岩波書店)、『いただきますを考える』(少年写真新聞社)などがある。



応募先アドレス

ホームページ

<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>
よりご応募ください。



主催・後援

主催：ヤンマーアグリ株式会社

後援：農林水産省

一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

公益社団法人 大日本農会

●一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

農山漁村の活性化、国土の均衡ある発展及び自然と調和のとれた豊かでうまいのある社会の実現を目的に、都市と農山漁村の交流促進と農山漁村地域の活性化に関する調査研究、農山漁村の情報の収集・提供、農林漁業体験施設及び農林漁業体験民泊の健全な育成並びに体験農林漁業の普及等を行っている。（2001年、農林漁業体験協会、ふるさと情報センター及び21世紀村づくり塾の3財団法人の合併により設立。2013年4月より一般財団法人に移行。）

●公益社団法人 大日本農会

明治14年に設立されたわが国で最も歴史ある全国的な農業団体。設立当初から皇族を総裁としていただいており、現在は、七代目として秋篠宮皇嗣殿下を総裁に推戴している。農業の発展及び農村の振興を図ることを目的に、農事功績者表彰事業、農業・農村に関する調査研究事業、勸農奨学、会誌「農業」の刊行等を行っている。2011年7月1日、内閣府より「公益社団法人」に認定。



問い合わせ先

●フリーダイヤル 0120 - 376 - 530（月～金 10:00～17:00）

●メールアドレス ronbun@yanmar.com

●事務局 〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428
ヤンマーアグリ株式会社 人事総務部内
ヤンマー学生懸賞論文・作文募集事務局

●ホームページ <https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>を
ご覧ください。ご参考として第30回～第32回の入賞作品集
を掲載しております。



その他

- 応募作品の著作権を含むすべての著作権利は、主催者に譲渡継承されます。
- 応募作品に学校の研究内容等を反映する場合、予め指導教官の了承を得たものに限りします。
- 入賞者の権利の譲渡は認めません。
- 入選発表会参加にあたり、肖像権は主催者に帰属します。
- 応募にあたり記入頂いた個人情報、審査結果通知に付随する事項を行うために利用します。本目的以外で利用する場合は、必ず本人の同意を得たものに限りします。
- 入賞者の学校名・学部・学年・氏名は公表します。
- 入賞作品は入賞作品集として編集し、全国の大学、図書館等へ配布します。
- 入賞作品集には入賞者の顔写真を掲載します。



（前年）第32回ヤンマー学生懸賞論文・作文募集入賞（敬称略）

論文入賞者（代表者）

大賞

中村 彩乃 愛知県立農業大学校／教育学部

特別優秀賞

宮下 楊平 鹿児島県立農業大学校／畜産学部
森 いずみ 神戸大学／農学部

優秀賞

遠藤 友香 日本大学／生物資源科学部
楠木 碧海 鹿児島県立農業大学校／畜産学部
菱山 瑠奈 明治大学／農学部
行田 海斗 明治学院大学／法学部
椎屋 大誠 鹿児島大学／農学部
三澤 郁斗 明治大学／農学部
田中 初 京都大学大学院／農学研究科
芝原 翔吾 高知大学／農林海洋科学部
外山 茉希 東洋大学／国際観光学部
市川 瑞姫 明治大学／農学部

作文入賞者

金賞

千田 朋実 岩手県立農業大学校／農産園芸学科

銀賞

北川 愛 青森県営農学校／果樹課程
寶代 築 鹿児島県立農業大学校／畜産学部

銅賞

日高 光星 鹿児島県立農業大学校／畜産学部
浦 龍馬 鹿児島県立農業大学校／畜産学部
鈴木 広美 山形県立農林大学校／養成部
畑 公子 青森県営農学校／畑作園芸課程
柳原 未優 千葉県立農業大学校／農学科
久我 美穂 千葉県立農業大学校／農学科
小濱 智也 長崎県立農業大学校／養成部
佐野 新太 福島県農業総合センター農業短期大学校／農業経営部
犬飼 悠希 鳥取県立農業大学校／養成課程
宮下 美来 鹿児島県立農業大学校／畜産学部

奨励賞

高橋 志織 山形県立農林大学校／養成部
青柳 万里奈 山形県立農林大学校／養成部
三浦 星 山形県立農林大学校／養成部
岩尾 咲菜 京都府立農業大学校／農学科
杉浦 慎児 山形県立農林大学校／養成部
千代 恭平 京都府立農業大学校／農学科
芦田 銀河 京都府立農業大学校／農学科
深澤 拓真 群馬県立農林大学校／農林部
古川 雄一郎 群馬県立農林大学校／農林部
小林 咲希 福島県農業総合センター農業短期大学校／農業経営部
野尻 碧衣 群馬県立農林大学校／農林部
土屋 瑠奈 鹿児島県立農業大学校／農学部
松山 凱星 山形県立農林大学校／養成部
中原 愛花 鳥取県立農業大学校／養成課程
高橋 龍 栃木県農業大学校／農業生産学部

※同一賞は応募受付順に記載しております。

※弊社のホームページ（<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>）には、第30回～第32回の入賞作品集を掲載しております。